

【「SOS の出し方に関する教育」講師養成研修】

お話の途中ですが、次の表に基づいて、グループで振り返りを含めた協議を行っていきましょう。

- ・ 各人がかけがえのない個人として共に尊重し合いながら生きていくことについての意識の涵養等に資する教育又は啓発、
- ・ 困難な事態、強い心理的負担を受けた場合等における対処の仕方を身に付ける等のための教育又は啓発
- ・ その他当該学校に在籍する児童、生徒等の心の健康の保持に係る教育又は啓発
- ・ 児童生徒が命の大切さ・尊さを実感できる教育
- ・ 「SOS の出し方に関する定期的な教育」を含めた社会において直面する可能性のある様々な困難・ストレスへの対処方法を身に付けるための教育
- ・ 精神疾患への正しい理解や適切な対応を含めた心の健康の保持に係る教育
- ・ 自尊感情や自己有用感が得られ、児童生徒の生きることの促進要因を増やすことを通じて自殺対策に資する教育



具体的な「授業のねらい」の例

- 1 生徒が「自らを大切な存在」であると認識することができる。
- 2 ストレスを感じることは自然なことで、適度なストレスは成長に必要なものであることを理解する。
- 3 ストレスに適切に対処するための自分に合ったセルフケアの方法を身につける。
- 4 悩みを一人で抱え込まず、信頼できる第三者に助けを求めることができる（SOSの発信）。
- 5 友達の悩みを真剣に受け止めるとともに、信頼できる大人につなげようとする。

人が誰かに相談に至るために必要なプロセスや条件

- ① 自分が困っているという状態を認識できる。
- ② 相談に必要なスキルと知識を有している。
- ③ 困った時、相談することのメリットを予測できる。
- ④ 周囲に信頼できる人、相談できる相手がいる。

「SOS の出し方に関する教育」を実施する上で、どのように落とし込んでいきますか？



ワーク1：「生徒が「自らを大切な存在」とであると認識することができる」ために、授業の中で、どのような発問や、手立てを使いますか

ワーク2：「自分が困っているという状態を認識できる」ために、
その授業に関するアイデアを出し合いましょう。

① 話題の入り口は、どうしますか？	② どのような知識が必要ですか？
③ 具体的にどのような資料を用意しますか？	④ ストレスの対処法は

ワーク3：「相談に必要なスキルと知識を有している」ために、（友達からの相談を受けることも含めて）
その授業に関するアイデアを出し合いましょう。

① 相談に必要なスキルや知識とは？	② 具体的にどのような授業を行いますか？
<u>「SOSを発信すること」を阻む要因とは？</u>	

近くの方と意見交換をしてください。

〔想定時間： 分〕